下和泉地区

「移動販売車（ぽかぽかマート）を通して

つながる地域の輪」

「グループホーム（なでしこ）の敷地内を『ぽかぽかマート』の販売場所の一つとしてくれたおかげで、グループホームの利用者さんと地域住民のみなさんが入り混じって交流するようになりました。それが本当に嬉しいですね。」

そう笑顔を見せながら話してくれたのは、グループホーム「なでしこ」（以下「なでしこ」）の管理者である千葉さん。「地域での買い物難民をなくそう」という想いから始まった移動販売の取組が、下和泉の地域で新たなつながりを創出する場へと発展しています。

（写真左から）移動販売車「ぽかぽかマート」の手づくりののぼり旗を手にした木下さん（下和泉地域ケアプラザ職員）と千葉さん（「なでしこ」職員）

「ぽかぽかマート」のロゴのデザインは、横浜市立下和泉小学校３年生の児童たちが授業の中で作成し、80 点あまりの作品の中から投票で決まりました。このロゴを使い手芸の得意な地域の方が手づくりしたのぼり旗が、移動販売を実施する場所の目印となっています。

買い物難民をなくしたい

移動スーパー「ぽかぽかマート」が始まるきっかけは、高齢化が進む下和泉地区での深刻な「買い物難民」の問題を解決したいという下和泉地域ケアプラザの職員の声でした。下和泉地区では、路線バスの廃止や運行本数の減少、また地域の商店が閉店しており、高齢者の中には少し離れた場所にある大手スーパーなどへ車で買い物に行くのが難しい状況の方もおられます。日々の食料品の買い物が不便になってきているのです。

こうした買い物難民をなくそうという想いをもった下和泉地域ケアプラザからの声かけに賛同したのが「なでしこ」の職員のみなさんでした。

「職員が買ってきた食べ物を食べるだけではなく、たとえ少しであっても、好きなパンやお菓子を、自分で選んで買って食べることができると生活にもハリがでます」

そう話してくれたのは「なでしこ」の管理者である千葉さん。千葉さんは、地域ケアプラザから話を聞いた時に、移動販売車を利用することで高齢者の買い物を支援することができるのではないかと考え、「なでしこ」の系列企業でもあり、スーパーを運営する株式会社アリアの大川さんに声をかけました。

株式会社アリア 移動販売事業 常務取締役 大川さん

地域住民の力でＰＲ

大川さんも移動販売で高齢者の買い物の支援をするという趣旨に賛同。千葉さんが相談をした数日後には「なでしこ」の駐車場で移動販売が始まったそうです。「高齢者の買い物の不便を解消したい」という想いに応えることができた大川さんでしたが、移動販売は独立採算制になるという大きな問題にぶつかります。人件費をかけないようひとりで運営しても週に５日の販売では、もともと１地点あたりの利用者数が少ないところに天候の影

響でお客さんが少ない、常時２、３人しか来ない場所があるなど、運営に必要な顧客数と売り上げが見込めず、採算がとれません。日によって売り上げにばらつきがあるため仕入れる商品や数量も予定通りにはいかないのが現状です。これ以上収益が悪化した場合は、喜んでくれている地域の人たちの意にそぐわず、この地域での移動販売を断念せざるを得ません。

そこでビジネスとしてもなんとか成り立たせることを目指し、地域のみなさんや地域ケアプラザの協力を得て、様々な工夫をしながら少しずつ巡回拠点を増やしてきました。

*独立採算制…民間企業で各部門がそれぞれ独立した自己の収支で採算をとる経営方式

その努力の 1 つは、巡回拠点にある掲示板の存在です。移動販売車が来ることを地域の人たちに周知するため、下和泉連合町内会や同地区社会福祉協議会に共催・後援の協力をしてもらったことから、地域の掲示板に「ぽかぽかマート」の告知チラシを貼ることが許可されました。また屋号である「ぽかぽかマート」は企業色を薄めて地域に馴染むように、地元下和泉小学校の児童たちにロゴのデザインをしてもらいました。

新鮮野菜も販売している

このように「ぽかぽかマート」は、地域住民のみなさんからの様々な応援によって、事業を継続することができるようになりました。その結果、下和泉の地域にも変化が起きています。

地域交流の場も生まれる

「なでしこ」に入居する利用者のみなさんは「ぽかぽかマート」で買い物を楽しむだけでなく、地域から訪れる住民とのコミュニケーションも楽しむようになったそうです。
またそれがきっかけとなって、もっと交流の場を増やそうと「なでしこ」の庭を開放して青空のもと移動販売所の 1 地点として「ぽかぽかサロン」が始まりました。 「ぽかぽかサロン」では、下和泉地区社会福祉協議会の協力で夏場に流しそうめんを実施し、こどもから高齢者まで集まる楽しいひとときとなりました。

「なでしこ」に入居する利用者のみなさん

高齢化が進む下和泉地区に着実に変化をもたらしている「ぽかぽかマート」。しかし、一方では課題もまだまだ山積しています。まずは安定的な収益です。継続的に移動販売を行っていくために、運営に必要な最低限の収益を確保できるよう、地域のお祭りなどの行事にお弁当などを移動販売車で販売したり、周知してもらうためにチラシをまいたりと、地域住民の理解を得ることに努めながら試行錯誤を重ねています。

今「ぽかぽかマートを支えよう」という想いが、さらに地域の絆を深くしようとしています。

地域の絆をつなぐ大切な行事

下和泉地区センターでは、年明けに「お相撲さんとお餅つき大会」が開催されます。大相撲友綱部屋の協力による餅つき大会は、会場に即席の土俵と餅つきコーナーが設けられ、力士と力を合わせて杵を振り下ろしたり、相撲動作の指導を受けたりして触れ合うことができます。子どもたちの笑い声、それを見守る地域の皆さまの温かなまなざしが印象的でした。

力士から四股を教わる子どもたち

お相撲さんと力比べ

泉区事例集 2018

連長インタビュー

下和泉連合町内会　久野（ひさの）　毅（つよし）　会長

取材：ぽかぽかマート、お相撲さんと餅つき

いかに素晴らしい取組も、継続していくことができなければ利用者が不幸になってしまいます。そうならないように、常に地域住民と私たち自治会関係者、地域施設関係者が一緒になって考えることが大切です。私も常日頃から会議の場でアイデアを出すように努めています。

下和泉連合自治会館を建てる時も、みなさんのアイデアと工夫を取り入れることができました。

まちづくりは、一人ではなくみんなで考えるもの。難しい課題も、議論しながら考える時間がとても好きなので大切にしています。地域には様々なスキルを持った方がたくさんいらっしゃいますので、ぜひその力を発揮してもらいたいですね。